

1 今年度の取組目標等に関する自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

【学習指導】

- ・ 適正な年間指導計画の作成及び授業時数を確保しながら、計画的な学習指導に取り組んできた。
- ・ 始業・終業時間の厳守、授業規律の保持・徹底、授業内容等の工夫により、生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図ってきた。
- ・ 授業見学期間を設定し、教員が相互に授業見学し合ったり、他校の授業見学をしたりすること等を通して教科指導力の向上に努めてきた。
- ・ ICT機器を活用した授業実践に努めてきた。これまで以上に生徒の学習への興味・関心を高める授業を実践できたことと中途退学者数の前年度比減に相関があるものと自己評価した。
- ・ 各種検定の積極的な受検を促し、適切かつ必要な学習面の支援に取り組むことができた。生徒の学習への動機付けになるとともに、希望進路の実現に生かされた。

【生活指導】

- ・ いじめ対策防止基本方針に基づき、いじめの実態把握調査を計画的に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組むことができた。
- ・ ホームルーム活動や学年集会において、きめ細かな生活指導を実践し、生徒の帰属意識を醸成するとともに、学校生活を送る上で必要なルールを遵守することの必要性を理解させることができた。
- ・ 6月、全教員で生徒情報交換会を実施し、生徒理解を深める機会とした。教育相談委員会は、開催計画自体を頓挫させてしまったが、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーはもとより外部関係機関等との円滑な連携は実現しており、校内の教育相談体制は概ね良好と自己評価した。

【進路指導】

- ・ 生徒の進路実現に対する内発的動機付けを高めさせ、具体的な進路活動に取り組みせるよう「進路指導推進週間」を設定し、生徒の進路意識を高めることができた。
- ・ ホームルーム活動や総合的な探究の時間等を通して、道徳教育及びキャリア教育の充実を図ることができた。
- ・ 「令和4年度都立学校における不登校・中途退学対策（都立学校「自立支援チーム」派遣事業）実施要綱」を踏まえ、自立支援チームや外部関係機関と連携した不登校・中途退学対策を組織的に行うことができた。
- ・ 継続派遣校として、ユースソーシャルワーカーの支援・助言を受けながら、支援を要する生徒等に向け、就労、福祉、医療等の各種関係機関と連携を図り、進路決定に導くための組織的・継続的な指導に取り組んできた。

【特別活動・部活動】

- ・ 部活動への参加を奨励し、部活動の活性化を図ることができた。部活動加入率は、65.5%と当初目標を下回ったものの、部活動に参加している生徒は、意欲的に活動を継続し、部活動を通して互いに切磋琢磨する様子が見て取れた。
- ・ 生徒の自治的な活動を支援しながら各種学校行事の充実を図り、成功体験を積み重ねることで学校への帰属意識を高めさせることができた。
- ・ 生徒の自発的・自治的な活動を促し、支援や指導体制を工夫することにより生徒会活動を活性化させることができた。

【健康・安全】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に資する基本的な感染対策の取組については都教育委員会から示されたガイドラインの他、各種通知等による指導事項を遵守しながら継続することにより「感染しない・感染させない」学習環境を保持してきた。

- ・ 定期健康診断の受診を促進し、自らの健康・安全に対する意識を高めさせることができた。
- ・ 外部関係機関等を活用した保健講話やセーフティ教室の実施を通して、生徒に心と体の健康及びその保持増進について考えさせる機会を設けることができた。
- ・ 避難訓練を通じた災害に対する体験的・実践的な指導により防災意識を高めさせることができた。

【募集・広報活動】

- ・ 学校説明会、体験授業、授業公開並びに個別相談会を計画どおり実施した。第一次募集の最終応募倍率を0.25倍とすることができた。
- ・ 区内中学校の学校訪問を受け入れ、定時制課程の特長について理解を深めていただくことができた。
- ・ 学校ホームページを介した学校の情報発信は適切に取り組めたものの、更新件数に関しては当初目標を大きく下回る結果となり、更新計画の修正が次年度の課題となった。

【学校経営・組織体制】

- ・ 企画調整会議を中心とした組織的學校経営を推進してきた。管理運営規程に基づく学校運営の徹底を通して、組織的な業務遂行と諸課題の解決に取り組んだ。
- ・ 各種会議の定刻開始と予定時間内終了を徹底し、職員の計画的な職務遂行の実現に努め、ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組んできた。しかし、在校時間の減少等の顕著な成果に結びつくまでには至らなかった。
- ・ 経営企画室の学校経営参画機能の充実に努めてきた。次年度も引き続き、行政系職員と教員との相互連携をより一層深め、組織的に諸課題への対応が可能となる体制を整えていく。
- ・ 服務事故防止研修の実施を通して体罰の根絶はもとより服務事故全般の未然防止を図ってきた。

(2) 今年度の「数値目標」の実績

数値目標	実績
「わかりやすい授業」への生徒による肯定的評価 93%以上	91.2%
始業前、放課後、長期休業中における補習等の実施 15講座以上	35講座
教科指導力向上に資する各種校内研修の実施 6回以上	10回
教育相談委員会の開催 10回以上	0回
進路指導に対する生徒の肯定的評価 95%以上	91.2%
進路未決定者（進学準備等を除く） 10%以下	6%
健康・安全の諸課題に関する講話等の開催 3回以上	5回
特別活動・部活動への生徒による肯定的評価 73%以上	84.6%
「自立支援チーム」との連携 10回以上	10回
中途退学件数前年度比 10ポイント以上減	2.9ポイント減

2 次年度以降の課題と解決に向けた方策

(1) 学習指導

課題 ・ 生徒の学力向上、基礎・基本の徹底と発展・応用の充実

- ・ 生徒の課題、補習・講習への取組状況の改善

方策 ・ アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業実践

- ・ 授業力向上のための授業研究、校内研修や教員相互の授業見学等を継続
- ・ 生徒による授業評価アンケートの内容・方法等の改善
- ・ 課題に取り組んだり、補習や講習に参加したりすることの意義や必要性を理解させる指導を推進
- ・ 進級及び卒業を諦めさせない
- ・ 学校全体で生徒一人一人へのきめ細かな学習指導に取り組み、進級及び卒業を諦めさせない指導を充実させる。

(2) 生活指導

課題 ・自己指導能力を身に付け、高めさせる指導の工夫
・規範意識の醸成、進級及び卒業を諦めさせない指導

方策 ・生命及び人権尊重の理念に基づく生活指導の徹底
・社会や学校において他者と集団生活を送る上で必要なルール、マナー、モラルを身に付けさせ、確かな自己指導能力を醸成
・他分掌・学年と協力し合い、学校全体で生徒一人一人へのきめ細かな生活指導に取り組み、進級及び卒業を諦めさせない指導を充実させる。

(3) 進路指導

課題 ・進路指導部主導による4か年指導計画に基づく入学当初からの進路指導の充実
・進級・卒業・進路実現を諦めさせない指導の工夫

方策 ・キャリア教育を核とした進路指導計画と指導実践
・「丁寧な個人面談、三者面談」の実施
・関係機関と連携した進路指導の推進
・他分掌・学年と協力し合い、学校全体で生徒一人一人へのきめ細かな進路指導に取り組み、進級卒業を諦めさせない指導を充実させる。

(4) 特別活動・部活動

課題 ・帰属意識の醸成
・集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成
・規律ある行動実践に努めようとする能力や態度の育成

方策 ・各活動及び学校行事を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
・生徒が特別活動の各活動や部活動等に主体的に取り組み、達成感や自己有用感を味わわせる指導の工夫を図る。
・部活動は、文化系・運動系を問わず東京都が示すガイドライン等に基づき実施する。

(5) 健康・安全

課題 ・交通安全教育、問題行動等未然防止、不登校・中途退学防止に資する指導の充実

方策 ・警察等関係機関と連携した交通安全教室等の効果的な実施
・教育相談委員会の計画的な実施
・SCやYSWとの連携を一層充実させ、生徒の特性や環境等に起因する諸課題解決に当たる。

(6) 募集・広報活動

課題 ・普通科・商業科併置である定時制課程の特長を区内中学校に向け積極的に広報していく。

方策 ・学校見学会・説明会のプログラムの更なる工夫
・学校案内、学校ホームページによる情報発信の在り方の工夫改善
・近隣中学校等との交流促進

(7) 学校経営・組織体制

課題 ・学校経営計画の具現化
・教職員のL・W・Bの推進
・所掌事務の適正かつ効率的な遂行

方策 ・企画調整会議を中心とした学校経営の推進
・若手教員育成の強化
・L・W・Bの推進に向けた各種取組の推進
・校務遂行の効率化を目指し、引継書等作成・保存の徹底